平成29年度　第3回　地域医療介護ゆかりの会　アンケート・グループワーク結果

【開催日】 平成29年9月21日（木）18：30～20：00
【場　所】　ランチパーク
【主　催】　博愛会病院　教育研修室・地域医療連携室
【内　容】
1. 参加事業所紹介
2. 事例検討 『老老介護～介護者の理解を得ながら在宅生活を再開するために～』
博愛会病院　地域医療連携室　医療相談員　　満田　早紀
3. グループワーク
テーマ 『老老介護』　1）担当ケースにおいて工夫している・苦労している点
2）地域⇔医療機関、互いに求める情報や役割
3）ここにいる私たちができること
4. 意見・情報交換会

【申込人数】 45名 （地域：28名　院内：17名）
【参加人数】 40名 （地域：23名　　院内：17名）
【アンケート対象者】 地域からの参加者：23名
【アンケート回収数】 23名
【アンケート回収率】 100%

【アンケート結果】

性別	
男	6
女	17
未記入	0

職種（兼務あり）	
介護士	0
介護福祉士	6
社会福祉士	1
ケアマネジャー	13
訪問看護師	0
薬剤師	0
看護師	3

職種経験年数	
1～2年目	5
3～5年目	2
6～9年目	5
10～19年目	7
20～29年目	3
30年以上	1
未記入	0

年代	
20代	0
30代	5
40代	6
50代	10
60代	1
未記入	0

研修参加動機（重複回答可）		
テーマに関心あり	9	
上司や先輩に勧められた	6	
自主的に参加	11	
必要性があった	2	
スキルアップのため	10	
他	1	他事業所との情報交換・交流を求めて

事業所・施設の種類（兼務有）					
訪問介護	2	訪問看護	0	特別養護老人ホーム	2
通所介護	3	訪問リハビリ	0	介護付有料施設	2
通所リハビリ	2	グループホーム	0	特定施設入居者生活介護	0
居宅介護支援事業所	11	小規模多機能型居宅介護	0	保険薬局	0
いきいきセンター	0	老健	2	病院	1

満足度	
満足できた	19
まあまあ満足できた	4
あまり満足しなかった	0
満足できなかった	0
未記入	0

理解度	
わかった	19
まあまあわかった	4
あまりわからなかった	0
わからなかった	0
未記入	0

現場実践に役立つか	
役に立つ	21
まあ役に立つ	2
あまり役に立たない	0
役に立たない	0
未記入	0

本日の会についてのご意見やご感想をお聞かせ下さい

✾とても有意義な時間を過ごさせていただきました。医療との意見交換ができたことは、とても貴重で今後より連携を進めていく必要性を感じました。

✾多職種での意見交換ができることが勉強になりました。

✾本人や家族が帰りたいと希望があれば、勝手にこちらが無理だろうと判断せずに、問題点を具体的にして居宅のケアマネジャ―に相談しようと思いました。

✾ソーシャルワーカーの思いが聞けてよかった。

✾初めての参加であったが、たくさんの学びの機会となった。

✾色々な事業所の方と意見交換ができ、改めて気づかされることもあり、勉強になりました。

✾自分とは違う職種からの視点・意見や、地域の情報を知ることができた。また、いかに互いに情報交換していくか、無理なくケースに介入できる”ヒント”などが得られてよかった。

✾ホームの職員なので、老老介護ではありませんが、在宅でご主人が奥様を介護されており、入居された方の入居後のケアに対しての方法など、こだわりがありました。月1回の面談を実施することで安心していただき、集団でのケアにも理解いただけました。

✾グループワーク、とても良い意見が出てよかったです。

✾いつもお世話になっておる退院前カンファレンスの流れや、支援の方向性がわかりました。ありがとうございました。

✾事例についてソーシャルワーカーの関わりから、その後まで、ケアマネジャ―以外の視点でも学べましたので、今後に活かしたい。意見交換の中でも、いろんな職種からの話が伺えました。ありがとうございます。

✾自分がまだまだ未熟だとわかった。博愛会病院の皆さんはレベルが高いので、これから関わって連携させていただいて勉強したいな、と思いました。

✾利用者さんも高齢になり、今後、老老介護になる家族も増えてくると思うので、家族の背景など

今後、希望する研修テーマおよび内容・講師などについて、ご意見をお聞かせください。

✾事例検討

✾医療との連携

✾看取りケア

グループワークで頂いたご意見等

【テーマ】 老老介護に関する以下3つのテーマに沿ってグループワーク

①老老介護の担当ケースにおいて工夫・苦労している点

・いろいろサービスを勧めるよりも、話をする、コミュニケーションをとることから始める。

・高齢者に理解していただくには、口頭だけでは困難。視覚に訴える。私たちが聞きなれている言葉は、相手にとっては初めてである。

・夫婦のどちらかが死去したケース。自立生活が難しくなった夫への対応中。服薬管理も一人では難しく、慣れ親しんだDSで一緒に服薬確認やセットをしている。

・医療者の思い描く「生活のイメージ」は、現実と大いに異なる。

・介護を頑張る介護者には要注意。自身で、見えていない部分も多い傾向にあるため、周囲の見守る姿勢が必要ではないか。

・高齢者にとって、わかりやすく優しい簡単な言葉で話している。はっきり、ゆっくり伝えて、表情を見て、どのくらい伝わっているか確認している。

・詳しく具体的に、その人の特徴に合わせて説明している。

・介護者を気遣いながら、介護指導などの内容や時間・期間を検討している。

・男性の介護者は、習ったことを真面目にその通りにされる傾向にある。また、本当に困らないと助けを求めない。夫の「逃げ道」を作ってあげることも必要。

・利用者がCMの提案や注意等に聞く耳を持たない場合は、主治医や他の職種の力を借りて説明している。

・周りの家族等とのコミュニケーションからの信頼の構築。

・同居の家族との関係性の保ち方について、どこまで協力的な家族なのかを改めて理解する必要がある。

・個々、それぞれに対する情報提供の仕方やアセスメントとプランニング。
・まず、とことん相手の要望・話を聞く。途中、ついロを挟みたくなるが、じっと我慢！
・相手のタイミングを見計らう。
・自己流の介護方法も多く、心配になるが、見守る姿勢も大事。
・対象者が自分で「できていない」という部分を「できている」と認める。
・長年介護されている介護者は、人に話を聞いてもらいたい、という思いはある（大半の方は）ため、話をしやすい雰囲気づくりに心掛けている。
・最初のアプローチが大事。初回の印象が悪ければ、次からの関わりが難しくなる。
・利用者の生き様・文化・心情・価値観を大切にするよう心掛けている。
・事前情報を基に、まずしっかり話を傾聴する。寡黙な方には、昔の話を聞きながら、会話の糸口をみつけていく。
・他部署との連携を心掛けている。
・介護に集中している夫に対して、カメラマンだった経歴を活かし、ボランティアとしてふれあいサロンのカメラマンへ。
（CMがふれあいサロンを紹介） その後、夫に柔軟性が見受けられるようになった。

②老老介護のケースにおいて、地域⇔医療機関、互いに求める情報や役割について

・地域包括ケアシステムの現状として、”介護”が中心で、医療機関がまだ追いついていない印象がある。
・横のつながりをつくり、その人に適したサービスを提供できたらと思う。
・転倒防止だけではなく、転倒時の対処法も医療機関は考えてほしい。
・入院中から一緒に（病院もCMも）、退院後の生活を考えていく必要がある。
・医療に関する知識は、どうしても少ないので、勉強会などの開催はとても助かる。
・退院前カンファレンス等は、退院後の生活を見据えてすべての職種と関われるので非常に有効である。
・こちらが（在宅側）求めていること以上のことをしてくれる病院職員もいれば、その逆の場合もあり。
・地域（対象者が住むエリア）の特性などを知りたい。
・互いに、言いにくいことは、やはり、言ってほしい。知らないこと・わからないことが、わからないことも多い。
・タイムリーで正確な情報。
・病院側は、家族関係の把握・役割について把握しないのか？情報提供が少なく困ったことがあった。
・病院側から、福祉用具に関する正確な情報提供を本人・家族へお願いしたい。
・病院側からの事前情報と異なる場合がある。体調や内服管理など。
・病院側からの情報を、入院時から早期にCMは欲しい。
・病院のMSWへ入院相談をしにくいこともしばしばある。どこまでCMとして情報提供をするべきか、悩む。
CMのそのような姿勢を嫌がられる病院もある。
・病院側から「帰れない（自宅は難しい）」と言われると、とても悲しくなる。本人・家族の「帰りたい」思いを尊重してほしい。
悩むのなら、早く居宅側へ相談してほしい。

③ここにいる私たちができること

・対象の方を尊重していく姿勢をもつ。
・男性介護者の相談窓口をつくれたらいいな。
・介護者の「生きがい」つくりを一緒に支援。
・いろんな人が集えるカフェ。
・ゆかりの会のように、ネットワークを拡大。
・新たな正確な情報をタイムリーに発信し合う。